

「4つの循環を通じた新たな社会構築を願って」

岩手・木質バイオマス研究会 会長 伊藤幸男

シンポジウム開催趣旨

京都議定書の約束期間に入り、これまで遅れがちだった温暖化対策が加速しはじめました。また、鳩山政権は2020年の温室効果ガスを1990年比で25%削減する中期目標を国際公約とし、日本もようやく抜本的な取り組みが期待される状況となりました。

しかしながら、ともすると負担ばかりが強調されがちで、環境問題を解決することと開かれた未来のイメージとが結びついていないのではないのでしょうか。期待感の薄い未来に積極的に進んでいこうとする人はいないはずで、目標達成を困難なものとするでしょう。

この環境問題の解決＝負のイメージは、いままでと同じ方法で問題を解決しようとしているためでしょう。今、私たちに必要なのは、数値目標ではなく、環境問題の解決を通じた、開かれた未来、豊かな社会のイメージであり、そしてそのイメージを一人一人が実感伴って共有することだと考えます。

本日のシンポジウムでは、各界でご活躍のパネラーの皆様から豊かな社会像をご提案頂き、地球温暖化問題をも超えた新しい価値観の形成のヒントを得たいと願っています。

岩手・木質バイオマス研究会の紹介

- ◆ 設立 2000年7月
- ◆ 会員数 約180名
 - 個人会員中心
 - 林業・木材産業、設備関連等、関連する民間企業
 - 大学、試験研究機関等研究者
 - 県、市町村等行政職員
 - その他、一般の方々
- ◆ 目的
 - 「木質バイオマス利用の普及を通じて、岩手の風土、地域性に根差した循環型社会の形成に資すること」
- ◆ 活動内容
 - 国内外の先進地等の調査、交流
 - 政策提言
 - フォーラム、セミナー等の開催
 - 普及啓発のための書籍、パンフレット等の発行
 - 各種イベントへの出展



岩手県における木質バイオマス利用の普及状況

◆ 木質系ボイラーの導入状況(右図 2008年度末現在)

● ペレットボイラー 46台(32施設)

● チップボイラー 16台(12施設)

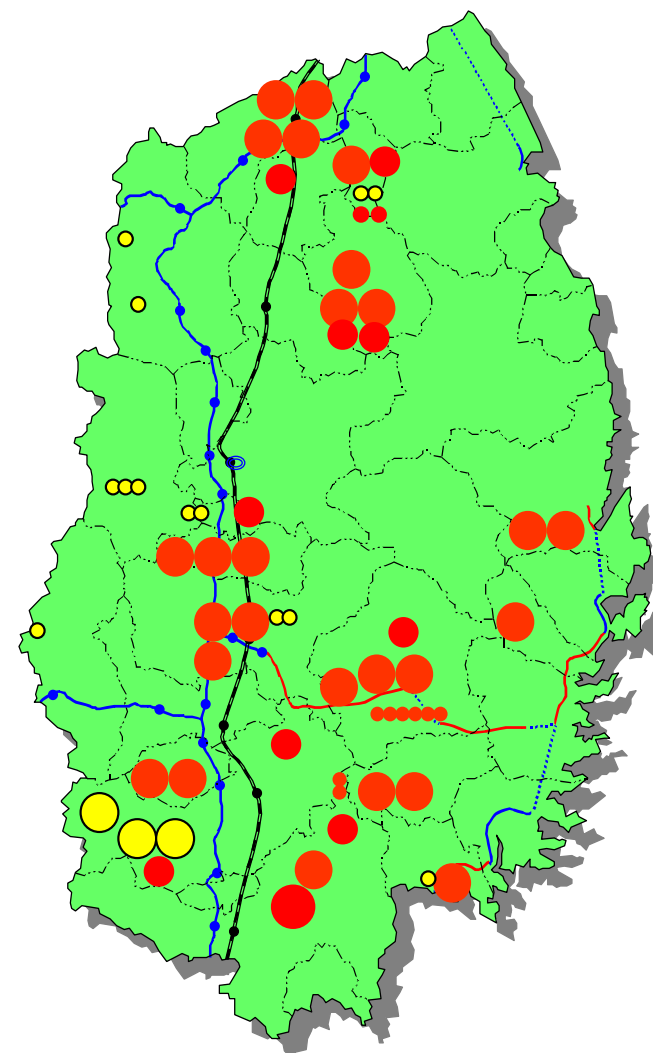
◆ ペレットストーブの導入状況

27台(2002年度末)→1,239台(2008年度末)

◆ ペレット、チップの利用量

ペレット 475トン(2002年度末)→3,272トン(2008年度末)

チップ 414トン(2003年度末)→1,245トン(2008年度末)



木質バイオマスをめぐる4つの循環

私たち研究会が木質バイオマスの普及活動を開始した2000年当時、「木質バイオマス」、「ペレット」という言葉すらよく知られていないという状況でした。ペレットが多くの人々に商品として認識されなければ、一粒であっても流通させるのは困難だったのです。

ここで、「環境に良くて、安くて、便利」ということだけでは十分ではないということに気がつきました。木質バイオマスに関わる多くの人達が信頼の環で結ばれていることが大切なのです。そこで私たち研究会は、小さくても信頼のある市場づくりに取り組んできたのです。

ところで、木質バイオマスは他の再生可能なエネルギーと最も違う特徴を持っています。それは森林資源の再生・循環が実現されて、初めて「再生可能」と言えることです。森林資源の再生・循環は、持続可能な林業生産とそれを支える山村地域の活性化を含んで実現されるものです。ところが、周知の通り林業も山村も後退・崩壊の一途を辿っています。木質バイオマスは私たちに実に多くの問題提起とヒントを与えてくれています。

木質バイオマスの持続的な利用は次の4つの循環を生み出すと考えています。

- ①森林資源の循環
- ②二酸化炭素の循環
- ③地域経済の循環
- ④信頼と豊かさの循環

木質バイオマス利用の究極の目標はこの4つの循環の実現でしょうし、このところを通じてより豊かな社会を構築していきたいと願っています。